



日本 HPH ネットワーク事務局 〒812-8633 福岡市博多区千代5丁目 18-1 千鳥橋病院内  
TEL : 092-641-2761(代表) E-mail:office@hphnet.jp

## 第 30 回国際 HPH カンファレンス のご案内

2024 年 11 月 6 日(水)～8 日(金)  
広島国際会議場(広島市中区中島町 1-5 平和記念公園内)

### 背景と目的

#### メインテーマ「健康の公正性を目指して ～医療機関と介護事業所の貢献～」

The Contribution of Health Promoting Hospitals  
and Health Services to Health Equity

第30回国際HPHカンファレンスは、世界的なHPHネットワークの重要な節目となります。今回は、アジアで 2 回目の HPH カンファレンスでもあります。そして、アジア地域は HPH が安定した成長を遂げた地域であり、現在、国際HPHネットワークには6つの国／地域のネットワークと 37 の組織メンバーが存在しています。30回目の節目を迎え、HPHが最初に設定した目標、ネットワークがこれまでに達成したことを振り返り、そして今後の課題と変化を議論する時を迎えています。

日本 HPH ネットワークが主催する会議は、核兵器による惨禍を経験してきた都市、広島で開催されます。この事によって、平和が健康の不可欠な前提条件であること、それから、この人生の基本的側面が人権の原則を反映しているものであるため、私たちはこれを維持する共同責任を負っていることを思い起こすことになるでしょう。

日本HPHネットワークと国際HPHネットワーク科学委員会は、歴史的な地で開催されるカンファレンスに

おいて、ヘルスプロモーションの主要な原則の1つである健康の公正性への病院と介護事業所の貢献に焦点を当てることを決定しました。これは、健康の公正性が全ての人々が最大限に健康を達成するための前提条件として重要であるとする世界保健機関(WHO)の「オタワ憲章」と一致しているものです。

国連の「健康の社会的決定要因に関する委員会」による 2008 年の報告書を受けて、国際HPHネットワークは、2010 年の第 18 回国際HPHカンファレンスで、健康の不平等のテーマについて議論しました。2015 年には、国連が持続可能な開発目標(SDGs)を採択し、その中には健康への公正性に関連する多くの項目が含まれています。これらを基盤として 2021 年には WHO が「ウェルビーイングのためのジュネーブ憲章」を、2023年には健康の不平等データベースを発表しました。この背景を踏まえ、本カンファレンスではさまざまな視点から健康の公正性を探求することを目指します。全体会、パラレルセッション、ミニ口演、ポスターセッションを通じて、健康の公正性に関する重要な問いが提示され、HPHが提供できる洞察や解決策に基づいて徹底的に検証されます。私たちの目標は、参加者が専門職の業務に適用できる実行可能なメッセージを得ることです。

#### 目次

第 30 回国際 HPH カンファレンスのご案内	1
背景と目的	
日本組織委員会 役員紹介	
プレ企画を開催しました。	
国際 HPH ネットワーク TOPICS	8
後期参加登録開始	
研究・資料	8
加盟事業所数	9
日本 HPH ネットワーク TOPICS	9

本カンファレンスでは、以下の5つの主要なテーマに焦点を当てます。

## 背景の設定—健康の公正性の重要性と医療 およびイノベーションが公正性に果たす役割

健康における公正性の重要性を示す科学的根拠があるにもかかわらず、気候変動、生物多様性の喪失、パンデミック、環境汚染、核戦争の脅威、人口の高齢化を含む人口動態の変化、強制移住、戦争と紛争、急速な都市化、インフォデミック、社会的排除、貧困など、健康の公正性に対する多くの脅威が存在しています。これらすべてが広範な不平等に寄与し、ますます多くの人々を健康の不公平の高いリスクにさらしています。医療の分野では、医療および技術革新へのアクセスは、医療機関自体によって健康の公正性を促進したり、逆に、妨げたりする可能性があります。2024年1月1日に日本の西海岸を襲った地震のような自然災害も、既存の健康格差を増幅するため、健康の公正性に対する重大な脅威です。これらの変化はまた、医療にも影響を与えています。例えば、ケアの経路を混乱させ、緊急治療や治療が必要な精神的な健康問題の必要性を増加させ、医療従事者に高い負担をかけることで多くの人々が退職することにつながります。カンファレンスの全体会1では、これらの問題について詳しく検討し、なぜ健康政策や医療システムが健康の公正性を推進することに真の関心を持つべきか、どのようにして誰も取り残さないことに貢献できるかの戦略を探り、イノベーションが健康の公正性を促進する可能性について掘り下げます。WHOは、財政的困難を負わずに必要な医療にアクセスできるようにする手段として、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の実施を長年提唱してきました。日本の経済学者である宇沢弘文も、「社会的共通資本」という概念を病院と医療サービスの基本的な前提条件として提唱しています(宇沢、2005年)。

▶ 全体会1 11月6日(水)17:45-19:00

## HPH 組織が健康の公正性にどのように取り組むか。

世界中の医療機関は、年間何十億人もの患者に非常に重要でしばしば命を救う支援を提供しています。それらはまた、世界の労働力の相当割合を占める重要な職場でもあります。将来の医療従事者のための訓練センターとして、それらの方針と労働文化は彼らの専門的態度にも影響を与えます。したがって、医療機関の組織のルーチンと実践は、健康の公正性の促進に貢献することができますが、その逆も

ありうることです。これには組織の支援と能力構築が必要です。HPH 基準を実施し、組織の健康リテラシーを活用することで、組織は医療の公正性を促進し、より公正な社会の構築に貢献することができます。

さらに、協会や類似の団体は、医療システムにおける文化の変化と発展に影響を与え、医療機関の具体的な行動を指導する上で重要な役割を果たすことができます。全体会2では、公正性をサポートする組織の方針の選択を探り、それに関するHPH 基準の役割を評価します。

▶ 全体会2 11月7日(木)9:00-10:30

## HPHは、どのようにして患者の健康の公正性を向上させることができるか。

医療機関では、各種の健康ニーズ、およびケアへの期待を持つ、さまざまな年齢、文化、性的指向の人々が見られます。全体3では、医療機関が、ダイバーシティ・マネジメントや社会的処方箋の実施、および患者の健康リテラシーの向上に焦点を当てることで、すべての人に質の高いケアを提供できるかどうかを検討します。また、子どもから高齢者までの脆弱なグループに特別な注意が払われ、これらのグループに対する公正性についてHPH 戦略がどのように機能しているかについて議論します。

▶ 全体会3 11月6日(水)16:15-17:45

## HPHは、地域社会における健康の公正性にどのように貢献できるか？

全体会4では、健康の公正性に対処する地域レベルのイニシアチブに焦点を当てます。地域ベースの予防サービスと医療提供の革新的な側面だけでなく、病院、医療、および社会的な組織による多部門の行動と他のセクターとの連携についても議論されます。例えば、在宅治療、利用可能な住居、交通、および健康的な食事などが議論されます。強制移住者や様々な危機の影響を受ける人々を含む脆弱なグループへのサポートに特別な重点が置かれます。この点に関して、HPH が障壁を取り除き、地域における健康とウェルビーイング(幸福)のための物理的およびデジタルインフラを促進する役割にも焦点を当てます。

▶ 全体会4 11月8日(金)9:00-10:15

## HPH ネットワークは、健康分野を超えて公正性にどのように貢献できるか？

健康システムをより良く健康の公正性を支援するように適応させる好機は多数ありますが、1回の好機で目標を達成することはできません。しかし、オタワ

憲章と「健康をすべての政策に」アプローチ(アデレード宣言、2010年)の精神で、健康の追求のために社会の異なる利害関係を調停し、社会、経済、環境の部門、非政府組織、ボランティア組織、地方当局、産業、およびメディアによる協調行動を提唱することができます。

国際HPHカンファレンスの30年の経験に基づいて、全体会5では、国/地域、国際レベルのHPHネットワークが、健康の公正性に向けたより広範な社会的発展をどのように支援できるのかを議論します。ここで議論する健康の公正性には、身体的および精神的な医療に対するユニバーサル・ヘルス・カバレッジの提唱、世代間の正義と公正性の重要な側面としてのプラネタリーヘルスの促進が含まれます。

▶ 全体会5 11月8日(金)15:45-17:00

### 第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会 役員紹介

**顧問** \*敬称略。顧問の役職は2023年12月28日現在

横倉 義武(公益社団法人 日本医師会名誉会長)

松本 吉郎(公益社団法人日本医師会会長)

高橋 英登(公益社団法人日本歯科医師会 会長)

山本 信夫(公益社団法人日本薬剤師会会長)

松村 誠(一般社団法人 広島県医師会会長)

山本 匡(一般社団法人 広島市医師会 会長)

小川 秀興(学校法人順天堂 理事長)

横手 幸太郎(全国医学部長病院長会議 会長)

五十嵐 隆(国立成育医療研究センター 理事長)

相澤 孝夫(一般社団法人 日本病院会 会長)

邊見 公雄(一般社団法人 全国公私病院連盟 会長)

吉新 通康(公益社団法人 地域医療振興協会 理事長)

高橋 淳(日本医療福祉生活協同組合連合会 会長理事)

増田 剛(全日本民主医療機関連合会 会長)

焼廣 益秀(広島国際大学 相談役 元学長)

小橋 元(獨協医科大学 副学長)

草場 鉄周(一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会

理事長)

齊藤 恭平(日本ヘルスプロモーション学会 理事長)

武見 ゆかり(一般社団法人 日本健康教育学会 理事長)

渡辺 仁(JA 長野厚生連佐久総合病院 統括院長)

今中 雄一(京都大学大学院 医学研究科

社会健康医学系専攻 専攻長)

森 千里(千葉大学予防医学センター センター長)

田中 秀樹(広島国際大学健康科学部 学部長)

湯浅 資之(順天堂大学国際教養部グローバル・ヘルスプロ

モーション・リサーチセンター所長)

森川 洋(健康社会学研究会 代表)

土肥 誠太郎(健康管理研究協議会 会長)

福田 洋(産業保健研究会 会長)

### 組織委員会 委員長

島内 憲夫(日本ヘルスプロモーション学会 名誉理事長・  
順天堂大学名誉教授・医学博士・広島国際大学  
客員教授・日本HPHネットワーク 特別顧問)

### 組織委員会 事務局長

舟越 光彦(公益社団法人福岡医療団 理事長・千鳥橋病院  
予防医学科科長・日本HPHネットワーク コー  
ディネーター)

### プログラム委員会 委員長

近藤 克則(千葉大学 予防医学センター 健康まちづくり  
共同研究部門 特任教授・一般財団法人 医療経済  
研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究  
部長(併任)・日本HPHネットワーク CEO)

### プログラム委員会 副委員長

武田 裕子(順天堂大学医学部 医学教育研究室 教授)

中山 健夫(京都大学大学院 医学研究科 社会健康

医学系専攻 健康情報学分野 教授)

近藤 尚己(京都大学大学院 医学研究科 国際保健学講座

社会疫学分野 教授)

鈴木 美奈子(順天堂大学国際教養学部 准教授)

### プログラム委員

伊藤 真弘(津軽保健生活協同組合 理事長)

尾形 和泰(北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院

院長)

福庭 勲(医療生協さいたま生活協同組合

埼玉西協同病院 副院長)

前島 文夫(JA長野厚生連 佐久総合病院 健康管理部長)

結城 由恵(公益財団法人淀川勤労者厚生協会 西淀病院

副院長)

根岸 京田(東京保健生活協同組合 理事長)

大矢 亮(社会医療法人同仁会 耳原総合病院 副院長

救急総合診療科部長)

廣田 憲威(一般社団法人大阪ファルマプラン

あおぞら薬局 理事)

岡田 浩(和歌山県立医科大学薬学部 社会・薬局薬学

研究室 教授)

飯塚 玄明(医療法人社団家族の森多摩ファミリークリニック・

千葉大学予防医学センター 近藤克則研究室

博士課程)

西岡 大輔(大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療

統計室 講師・南丹市国民健康保険美山林セ

ンター診療所 所長)

水本 潤希(東京大学大学院 医学系研究科 医学教育国際

研究センター医学教育学部門 博士課程・愛媛

生協病院 家庭医療科)

## 第30回国際HPHカンファレンス・ プレ企画を開催しました。

2024年9月21日(土) 13:30~17:10

順天堂大学国際教養学部 第3教育棟

第一部 ポスターセッション(事前検討会)

第二部 パネルディスカッション

「医療団体・医療機関のヘルスプロモーション  
～健康の公正性への貢献～」

プレ企画の第一部は国際HPHカンファレンスの本番でどのようにブラッシュアップしたポスターを発表するかをフォーカスしたセッションでした。

開会挨拶を第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会事務局長の舟越光彦(日本HPHネットワーク コーディネーター)が行いました。



第一部の前半はこれまで毎年のように国際カンファレンスでポスター発表をしてきた東京保健生活協同組合大泉生協病院院長の齋藤文洋氏によるミニ講演「英語ポスターの作り方」がありました。



### 基本

- シンプルでわかりやすい文章
- 見やすい大きさの文字
- 明瞭な背景コントラスト
- 見やすいレイアウト
- 言いたいこと一点だけ強調

シンプルでわかりやすい文章、見やすい大きさの文字、背景やコントラスト、レイアウトなどに気をつけることといったことにはじまり、英語のセンテンスを短くし関係代名詞を使わないこと、受動態も控えることに加えて、Google 翻訳や DeepL などの自動翻訳機能を使う場合の注意点や、文法チェックサイトの Grammarly などの活用もおすすめされました。きれいなプリントアウトしてくれる印刷屋さんにとどり着くヒントもありました。ケチらずにきれいにしあげてくれる業者さんに依頼することが大切と痛感した経験もあり、もっと早く齋藤先生の話聞いておけばと後悔しきりです。

結論としては、抄録として提供した程度の内容に絞って、キレイにわかりやすくということが齋藤氏のお話しのポイントでした。

後半はポスター発表予定の皆さんによる発表と、会場参加者とのインタラクティブなやり取りのためのセッションでした。



当初予定していたポスター展示の希望者よりも少ない7ポスターの展示希望でしたので、国際カンファレンス当日の方式とは異なるものの、口頭でのポスター説明と質疑応答の時間を設け、発表者側からもポスター作成へのアドバイスももらえるような時間となりました。

発表は、栢森恵子氏、横山有里氏(医療生協さいたま生活協同組合)、小林亮平氏(公益財団法人横浜勤労者福祉協会汐田総合病院)、鈴木久氏(公益財団法人淀川勤労者厚生協会)、池田浩子氏、大森裕之氏、城戸由美氏(公益社団法人福岡医療団)の7名が行いました。

ポスターセッションには、日本 HPH ネットワーク CEO 近藤克則、齋藤文洋氏も参加、内容に関してのアドバイスの他に、ポスターに詰め込む内容の分量など、多彩なやり取りがされました。

参加者からは、国際カンファレンスの当日、ポスターの前にはどれくらいの時間立ったほうがよいか、英語で話しかけられたときに聞き取れなかったときのヘルプはあるかなどの疑問も出されました。今回のポスター発表の準備をみながら、これからポスター作成を予定しているので参考になったとの声も寄せられました。

プレ企画の参加者のご感想をいくつか紹介します。

- 前半は、簡潔にポイントを絞って教えていただいたのと、Grammarly 等翻訳機能の活用の特徴も学べたので、持ち帰って活かしたい。実践的でとても参考になり、これでポスター作れそうな気がしてきました。



ポスターの質の面やレイアウトなど多岐に渡る範囲をご講義頂けてとても参考になり、自身のポスターも再考してみたいと思います。今回は発表予定ないが今後の発表の際に役に立つと思うので、資料は大事にとっておこうと思いました。言語が違う点ではいかに簡潔に分かりやすく作成出来るかということが理解出来た。

後半は実際に質問をしてもらえ、何を伝える必要があるのかポイントも絞れました。他の発表者の発表も聞いてハンドアウトを利用する方法も知ることが出来た。せっかくの発表なので、発表者それぞれが伝えられる事、そして成果を持ち帰ることができるよう支援したい。

質問を多数頂き、当日の質問対策になりました。演題数が少なかったことで多くの参加者にも見て頂けたので助かりました。現場の生情報が大変良かった。急遽発表することになったようなので、準備不足のセッションもあったが、ポスターのコントラストや図表の見せ方など学ぶ点もあったので良かった。

講師の先生をはじめご参加の皆様、順天堂大学関係各位に厚く御礼申し上げます。

報告：徳山通(日本 HPH ネットワーク事務局)

## パネルディスカッション

「医療団体・医療機関のヘルスプロモーション  
～健康の公正性への貢献～」

パネリスト

荻津 守氏(社会福祉法人恩賜財団済生会支部  
栃木県済生会宇都宮乳児院 院長)

宇田 英典 氏(公益社団法人地域医療振興協会  
ヘルスプロモーション研究センター  
シニアアドバイザー)

根岸 京田氏(全日本民主医療機関連合会副会長・  
蔵前協立診療所 所長)

由井 和也 氏(JA 長野厚生連 佐久総合病院  
小海分院 院長)



パネルディスカッション  
コーディネーター近藤克則  
(第30回国際HPHカンファレンス日本組織委員会プログラム委員長・日本 HPH ネットワーク CEO)

## パネルディスカッション報告

### パネリスト

宇田 英典 氏(公益社団法人地域医療振興協会  
ヘルスプロモーション研究センター  
シニアアドバイザー)

宇田英典氏より、「医療・介護施設のヘルスプロモーション活動～公益法人を対象とした調査結果から～」のテーマで発表していただきました。

冒頭、地域医療振興協会の事業紹介があり、次いで、京都大学大学院医学研究科医療経済分野との共同事業を実施した、協会内施設のヘルスプロモーション活動に関する調査の結果が紹介されました。

その調査結果では、セッティングアプローチの視点で、患者、職員、地域住民に対して旺盛に活動が開かれていることが示されました。患者に対しては、新型コロナウイルス対策、リハビリテーションの充実が取り組まれていました。地域住民に対しては、健康教育や自治体との連携が取り組まれていました。職員へは、メンタルヘルスや健診が取り組まれていました。事業集団間の比較では、スタッフが少なく、診療所では病院、介護施設と比べて若干実施率が低くなっていました。

良好事例の紹介として、台東区立台東病院内のコンビニでの取り組みが印象的でした。商品棚の配置を見直し、低塩のカップ麺を目につきやすい位置に配置し、無糖飲料の割合を3割から6割に増やしているという事でした。その結果、低塩カップ麺の増加と無糖飲料の増加に結び付いているという事でした。

また、公立久米島病院では、新入職員の研修に島の歴史と風習を学び、島独自の儀式を取り入れた看取りも実践しているという事でした。

一方で、課題も紹介されました。ヘルスプロモーション活動に収益規制があることや、活動に対する評価があると、さらなる促進が図られるという事でした。この点については、厳しい医療と介護の経営環

境の中で、ヘルスプロモーション活動を実践するうえで克服する課題であることに大変共感した点でした。

報告：舟越光彦(日本 HPH ネットワーク コーディネーター・公益社団法人福岡医療団 理事長・千鳥橋病院予防医学科)

### パネリスト

荻津 守氏(社会福祉法人恩賜財団済生会支部  
栃木県済生会宇都宮乳児院 院長)

栃木県済生会宇都宮乳児院院長の荻津守氏からは「ソーシャルインクルージョンの理念に基づいたまちづくり 他職種連携による地域ネットワークの構築」と題し、発表していただきました。

コロナ禍を通じて若年者の自殺が増加していることから、「あなたは一人ではないと伝えたい」という思いを形にするために活動を開始、地元のFMラジオの番組を通じて訴えました。食料品配布と相談会の取り組みでは、行政をはじめNPO法人や医療機関などに積極的に訴えかけ、10日間で実施することができました。支援したい人同士をつないで立体的に支援することが重要です。また、相談を受ける中で新たな課題として生理の貧困に気づき、フードバンク内で生理用品の配布を開始しました。その取り組みはつながりサポート女性支援事業」に発展し、常設の相談窓口である「つなサボ相談室」が運営されています。荻津氏は「身近に相談できる窓口があることを知ってもらい、そこで『本気の大人』に出会えることが重要」と強調されました。

ソーシャル・インクルージョンとは、すべての人が貧困や孤立に苦しむことなく、自分らしく生きられるよう、社会全体で支え合うという理念であり、済生会がハブとなってさまざまな団体をつなげて重層的な支援体制を構築し、誰も排除されない「まちづくり」を実現させるとしています。



報告：根岸京田(全日本民主医療機関連合会副会長・  
東京保健生活協同組合 理事長 蔵前協立診療所  
所長・日本 HPH ネットワーク運営委員)

パネリスト

根岸 京田氏(全日本民主医療機関連合会副会長・  
蔵前協立診療所所長)

日本民主医療機関連合会(民医連)副会長・蔵前協立診療所所長の根岸京田氏からは民医連の取り組みについて、その歴史的経緯も含めて発表がありました。戦後の荒廃期に地域の健康、命を守った取り組みには大きく3つの潮流があったのではないのでしょうか。一つは岩手県沢内村に代表される行政主導の取り組み、二つ目は農村医療に取り組んだ佐久総合病院に代表される病院や医療団体による取り組み、そして三つ目は全国各地で取り組まれた住民主導のとりくみです。戦後、国民皆保険の実現以前、全国各地に命や健康を守るための住民運動が生まれました。それに賛同する医療者が加わり、地域の人たちからお金を集めて小さな診療所を建て、やがて法人化し発展していったのが民医連のルーツです。民医連のすすめる運動の特徴として、地域の要求に根差した医療・介護活動を行っていること、民医連の趣旨に賛同する人たちが「共同組織」として事業所の運営や地域活動に参加していること、「民医連綱領」を掲げ無差別・平等の医療と福祉の実現を目指していること、後継者育成にも取り組んでいることが挙げられます。大事にしている概念として「共同のいとなみ」があります。職員と地域住民が一緒に活動することによってパターンリズムを克服し、事業所の運営や社会保障・平和を守る活動も共同で行うこと、さらにあらゆる差別のない、ケアが大事にされる社会を共に目指すこととしています。民医連では医療・介護事業とともに社会保障や平和を守る活動、まちづくりが重



要な活動分野とされています。医療機関が地域に働きかけることだけでなく、地域の運動に医療機関が巻き込まれていくことも重要と考えています。

報告：根岸京田(全日本民主医療機関連合会副会長・  
東京保健生活協同組合 理事長 蔵前協立診療所  
所長・日本 HPH ネットワーク運営委員)

パネリスト

由井 和也 氏

(JA 長野厚生連 佐久総合病院 小海分院 院長)

由井和也氏からは、「“農民とともに”を合言葉に健康な地域をはぐくむ～佐久総合病院の実践から～」のテーマで発表がありました。佐久総合病院は改めて紹介するまでもなく、日本の病院におけるヘルスプロモーション活動のパイオニアです。最初に、若月俊一先生が築いたヘルスプロモーション活動の原型ともいうべき様々な活動実践が紹介されました。大規模な病院祭、劇団部、出張検診、全村健康管理などです。全村健康管理は、その成果が評価され、老人健診として日本の検診制度の構築に生かされています。健康祭は、私も一度参加させていただきましたが、1万人を超える参加者がある大規模で、職員的情熱と佐久スピリットが伝わる素晴らしい企画として継続されています。

一方、人口減少は農村地域にとっても喫緊の課題となっていることが紹介されました。そして、一極集中がすすみ介護破綻が予測される東京に対して、ともに抱える課題の解決のために農村が連帯することが可能だろうかとの問いかけは、大変重いものでありました。

最後に、若月俊一先生の「健康は平和の礎」の書が紹介されました。ウクライナやガザでの戦闘地域で、奮闘する医療従事者と連帯し、同時に、一刻も早期の停戦を求める国際世論の情勢に私たちも参画しては行かないとの思いを強くしました。





報告：舟越光彦（日本 HPH ネットワーク コーディネーター）



プレ企画のパネルディスカッション資料は、WEB サイト第 30 回国際 HPH カンファレンス日本組織委員会よりご覧いただけます。

[https://www.hphnet.jp/ihcjoc\\_news/18833/](https://www.hphnet.jp/ihcjoc_news/18833/)

## 国際 HPH ネットワーク TOPICS

### 第 30 回国際 HPH カンファレンス 後期参加登録を開始

2024 年11月 6 日(水)～8 日(金)に広島国際会議場で開催される国際 HPH カンファレンスは、10 月 1 日より後期参加登録の受付を開始しました。日本から参加者は、第 30 回国際 HPH カンファレンス日本組織委員会からの補助金により参加費が割引されています。どうぞお早めにご登録ください。

第 30 回国際 HPH カンファレンス日本組織委員会

<https://www.hphnet.jp/ihcjoc/>



### 環境に配慮した会議運営を行います。

本カンファレンスでは、地球環境に配慮し、フードロス削減、紙資料の配布を最小限といたします。会場内の案内、プログラムと企画の場所のご案内は受付等のほか、WEB サイトに掲載します。国際 HPH カンファレンスに関するよくあるご質問は、FAQ のページに掲載しています。

▶参加登録に関する問い合わせ

京王観光株式会社 八王子支店

担当：阿久津・小林・大場

営業時間：10:00～17:00(月～金)

E-mail：[hphcf@keio-kanko.co.jp](mailto:hphcf@keio-kanko.co.jp)

## 研究・資料

### 「2020 年版 HPH 基準」事例集

J-HPH ニュースレター(No.8 APR. 2018～No.20.MAY. 2022)に「加盟事業所の取り組み」としてご紹介した事例を閲覧いただけます。

皆様の事業所でのヘルスプロモーションの可視化に「2020 年版 HPH 基準」と併せてご活用ください。研究・資料>「2020 年版 HPH 基準」事例集

<https://www.hphnet.jp/study-data/15871/>

### 「ヘルスプロモーション用語集 2021」

”Health Promotion Glossary of Terms 2021” World Health Organization(WHO)発行の日本語版「ヘルスプロモーション用語集 2021」は、日本 HPH ネットワーク・日本ヘルスプロモーション学会の共同翻訳により 2023 年 3 月に発行しました。WEB サイトより PDF をダウンロードいただけます。研究・資料>「ヘルスプロモーション用語集 2021」

<https://www.hphnet.jp/study-data/17461/>





## 加盟事業所数・新規加盟事業所

加盟事業所数 2024年10月11日現在

**123** うち準会員2事業所

内訳:病院 75/クリニック 12/薬局 6/研究機関・ヘルスサービス\*30\*研究機関・ヘルスサービスには、老人保健施設、法人グループ、準会員を含む。

### 新規加盟事業所

青森・一般社団法人あおもり健康企画  
大野あけぼの薬局

宮城・公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院  
京都・公益社団法人信和会 京都民医連 洛北診療所

加盟事業所一覧

<https://www.hphnet.jp/list/list.html>

## 日本 HPH ネットワーク TOPICS

### 第9回日本 HPH ネットワーク総会・コーディネーターワークショップ (オンライン開催)

2024年12月7日(土) 14:00

参加対象:HPH 正会員のコーディネーターまたは HPH 担当者

詳細が決まり次第、ご案内をお送りします。

### HPH 加盟のご案内

日本HPHネットワークは、患者、職員、地域住民の健康水準の向上をめざし、住民や地域社会、企業、NPO、自治体とともに、健康なまちづくり、幸福、公平、公正な社会の実現に貢献することを目的として取り組んでいます。この目的を達成するため、次の事業を行っています。

- (1)ヘルスプロモーションの実践と普及
- (2)HPH の担い手の養成と研修
- (3)研究活動と学術機関との連携・協同
- (4)国内外の交流と連携

(5)啓発・広報

(6)その他

皆様の事業所のヘルスプロモーションの取り組みを日本へ、世界へご紹介ください。加盟に関する詳細、手続きは、J-HPH の WEB サイトをご覧ください

<https://www.hphnet.jp/accession/entry.html>

### 賛助会員 (団体・個人) ・ご寄付のご案内

当ネットワークの取り組みを次世代へと継承していくために、事業目的に賛同し、活動を支援して下さる賛助会員(団体・個人)および寄付を募集しています。多くの皆様からのご支援のもとに、さらに充実した活動を続けてまいります。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

WEB 研究・資料>

賛助会員(団体・個人)募集・ご寄付のお願い

<https://www.hphnet.jp/study-data/2445/>



#### 原稿募集「加盟事業所の取り組み」

会員・準会員の皆様の事業所のヘルスプロモーションの取り組みをニュースレターにお寄せください。文字数1,200字程度、写真2〜3点を。を事務局までお送りください。

J-HPH ニュースレター、WEBサイト「加盟事業所の取り組み」に掲載させていただきます。なお、「2020年版HPH基準」の該当番号を可能な限りご記載ください

日本 HPHネットワーク事務局

E-mail:office@hphnet.jp

次号の J-HPH ニュースレターは、2025 年1月発行予定です。主な内容は、第 30 回国際 HPH カンファレンス報告、ポスト企画のご案内、加盟事業所の取り組み、第 10 回 J-HPH スプリングセミナーのご案内を掲載予定です。



日本HPHネットワーク

Japan Network of Health Promoting  
Hospitals & Health Services